

第12回デフリンピック運営委員会 議事次第

日時：2025年10月31日 16:00～17:30

場所：戸山サンライズ 2階 大会議室

1. 委員長挨拶

2. 報告

- (1) 第6回コンプライアンス委員会について 【連盟】
- (2) 第7回及び第8回利益相反管理委員会について 【連盟】
- (3) 国際手話通訳者及び手話言語通訳者の養成等について 【連盟】
(参考説明) 全国キャラバン活動について 【連盟】
- (4) 大会への子供の参画について 【都】
- (5) デフリンピック気運醸成に係る大会直前・大会時の都の主な取組について 【都】
- (6) ユニバーサルコミュニケーションの促進に係る大会時の都の取組について 【都】
- (7) 選手団のエントリーについて 【事業団】
- (8) 選手への対応について 【事業団】
- (9) 観客への対応について 【事業団】
- (10) メディア関係について 【事業団】
- (11) 開閉会式について 【事業団】
- (12) デフリンピックスクエアについて 【事業団】
- (13) メダルデザイン等について 【事業団】
- (14) 協賛について 【事業団】
- (15) ボランティアについて 【事業団】

報告（1）第6回コンプライアンス委員会について

- コンプライアンス委員会は、運営委員会のコンプライアンスの推進に係る重要な方針の策定や啓発、連盟理事、監事および運営委員会の運営委員、運営委員会事務局職員のコンプライアンス違反への対応について、運営委員会の諮問に対し審議し、意見を具申する。
- 10月27日に第6回コンプライアンス委員会を開催し、2025年度コンプライアンス推進計画の上半期達成状況について審議を行った。
- 次回開催は3月末を予定。

主な審議事項	審議結果
2025年度コンプライアンス推進計画の上半期達成状況	上半期の遂行状況について問題ないこと、下半期について計画変更の必要性がないことを確認・承認された。

主な報告事項	報告内容
コンプライアンス研修の実施について	役職員等を対象に実施したコンプライアンス研修について実施状況の報告を行った。
「スポーツ庁指針に係るセルフチェックリスト」及び「東京都ガイドライン」への取組状況	ともに取組事項の達成率が100%であることを報告した。
第3回三様監査体制意見交換会の実施について	連盟監事、公認会計士、運営委員会事務局監査担当で、2024年度内部監査報告会や2025年度内部監査計画について意見交換を実施し、より一層ガバナンス・コンプライアンスを遵守した業務を遂行していくことを確認した。

報告（２）第7回及び第8回利益相反管理委員会について

- 利益相反管理委員会は、運営委員会の事業活動における取引の公正性や信頼性を確保するため、連盟理事、監事および運営委員会の運営委員、運営委員会事務局職員（以下「役職員等」という。）の利益相反関係を審査する。
- 7月29日に第7回利益相反管理委員会を開催し、役職員等からの利益相反自己申告書の審査及び利益相反管理チェックシートの確認について、審議を行った。

主な審議事項	審議結果
利益相反自己申告書の確認	役職員等（新任のもの）から提出された自己申告書を審査し、利益相反事項がないことを確認・承認された。
利益相反管理チェックシートの確認について	役職員等から提出された2025年度第1四半期分利益相反管理チェックシートを審査し、全件利益相反やチェック箇所の内容に問題がないことを確認・承認された。

報告事項	報告内容
利益相反管理研修の実施について	役職員等を対象に実施した利益相反管理研修について実施状況の報告を行った。

- 10月8日に第8回利益相反管理委員会を開催し、役職員等からの利益相反自己申告書の審査及び利益相反管理チェックシートの確認について、審議を行った。

主な審議事項	審議結果
利益相反自己申告書の確認	役職員等（申告内容に変更のあったもの）から提出された自己申告書を審査し、利益相反事項がないことを確認・承認された。
利益相反管理チェックシートの確認について	役職員等から提出された2025年度第2四半期分利益相反管理チェックシートを審査し、全件利益相反やチェック箇所の内容に問題がないことを確認・承認された。

報告（3）国際手話通訳者および手話言語通訳者の養成等について

東京2025デフリンピックでは、国際手話通訳者（ろう者）、日本手話言語通訳者とのペアによる協働で通訳を進めることとし、必要な人材の養成を進めてきた。

- **東京2025デフリンピックに向けた登録国際手話通訳者試験（2023年度～）**
デフリンピック開催に向け、ICSDやその他国際機関など協議の場において必要となる国際手話通訳者を確保するため、国際大会又は国際会議での国際手話通訳経験者等を対象に登録試験を実施。
- **東京2025デフリンピックに向けた国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者養成研修会**
大会に必要な国際手話通訳人材のさらなる確保のため、デフリンピックに関する基礎知識、協働通訳・リレー通訳の理念の習得などを目的として実施（実技演習含む）。
①2024年6月～11月 ②2025年1月～3月（追加開催）
履修時間：国際手話通訳者 50時間、日本手話言語通訳者 34時間
- **国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者養成スキルアップ研修会**
世界手話言語通訳者協会（WASLI）の協力のもと、協働通訳技術についてのさらなるスキルアップと、大会・競技専門用語の習得などを目的として実施。（2024年度養成研修会修了者等を対象）
6月：協働通訳研修 5月～8月：競技別研修
履修時間：国際手話通訳 24時間、日本手話言語通訳者 24時間



以上により養成した人材を大会の国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者として推薦

- **国際手話通訳者（約100名）、日本手話言語通訳者（約140名）あわせて240名程度が活動予定**

＜主な活動場面＞

- ・ **競技会場等**での通訳（SD調整、技術会議、抗議委員会、表彰式、競技映像配信、その他運営全般）
- ・ **開閉会式会場**での通訳（壇上対応、VIP対応サポート、その他運営全般）
- ・ **デフリンピックスクエア**での通訳（選手団団長会議、記者会見、その他運営全般）



▲2024.11 合同研修会



▲2025.6 世界手話言語通訳者協会（WASLI）講師による講義

参考：全国キャラバン活動について

スポーツ庁では、東京2025デフリンピックを契機としたデフスポーツの機運醸成に向けた取組によりスポーツを通じた共生社会の実現を図るため、令和6年度補正予算を確保した。全日本ろうあ連盟ではこの予算を活用し、全国キャラバン活動としてデフスポーツの体験等を含めたイベント等を実施。

なお、計画および実施報告については、「TOKYO 2025 DEAFlympics」特設サイトに随時掲載している。

(URL) <https://www.jfd.or.jp/caravan2025/>

○ 目的

- ・東京2025デフリンピックの認知度向上および気運醸成
- ・手話言語やろう者の文化の発信・理解促進
- ・多様性と共生社会(SDGs)の推進
- ・日本代表選手や各国選手への応援を全国から届ける

○ 事業

- ・イベントキャラバン（商業施設を活用したイベントの開催）
- ・学校キャラバン（ろう学校等の児童生徒に対する体験学習）
- ・キャラバンカー巡回（各地域におけるイベントの支援）

【期間：2025年3月から2025年11月14日まで】

○ 後援（五十音順）

手話を広める知事の会、スポーツ庁、全国市長会、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国手話言語市区長会、全国知事会、公益社団法人全日本トラック協会、公益社団法人日本青年会議所、日本放送協会、一般社団法人日本民間放送連盟



(1) イベントキャラバン

デフスポーツやデフリンピック、共生社会の啓発促進を図るため、全国47都道府県及び大都市の大規模集客施設や自治体、競技団体等の大規模イベント等にて、イベントを実施。

○ 実施期間

2025年3月～11月14日

○ 実施場所

大規模集客施設や大規模イベント等（47都道府県・大都市）

○ 実施件数（2025年10月2日時点）

77か所（うち、60か所は実施済み）

○ 実施内容

- ・東京2025デフリンピックやデフスポーツの紹介パネルやバナースタンドの展示
- ・デフアスリート等によるトークショーなどのステージイベント
- ・デフスポーツ体験、手話言語や国際手話の体験など



(2) 学校キャラバン（ろう学校等の児童生徒に対する体験学習）

- 小中学校、ろう学校を含む特別支援学校を対象に、学校からの依頼に基づきデフアスリートや手話言語指導講師等を派遣。【授業実施期間:2025年5月1日～11月14日】
- プログラム実施に係る費用について、一部を連盟が負担。
 - 【上限金額・上限人数】
 - ・ 講師謝礼金：1校あたり1時間20,000円×1名（交通費含、源泉徴収税込）
 - ・ 手話言語通訳者の手配に係る経費：1校あたり1時間10,000円×2名（交通費含、源泉徴収対象外）
- 2025年4月より募集を開始し、9月時点で予定回数を上回る申込みあり。（上限50回で受付終了）
 - ・ 第1次募集：2025年4月1日～4月21日（21件）
 - ・ 第2次募集：2025年6月1日～6月23日（12件）
 - ・ 6月24日以降は先着で受付（17件）
- きこえる子ども向け、きこえない・きこえにくい子ども向けの2種類のパンフレットを作成。事前・事後学習で活用できるよう、体験授業を実施する学校に配布。



体験学習申込件数 校種別内訳

校種	申込件数	体験見込者数
小学校	26件 (2件)	約2,550名
中学校	10件 (1件)	約2,250名
ろう学校・特別支援学校	14件	約600名
合計	50件	約5,400名

※人数は、申し込み時点での見込み数
 ※（ ）は難聴学級からの申し込み分で内数

(3) キャラバンカー巡回（各地域におけるイベントの支援）

○ キャラバンカー

ピンク色を基調とした大会PRカーを2台仕立て、北回りと南回りで全国を巡回。

○ 巡回日程

【北回り】 6月14日(土)より岩手県から21道県を回り、11月8日(土)に東京都に到着
11月13日(木)まで都内を巡回、その後Jヴィレッジ（福島県）に展示（予定）

【南回り】 6月19日(木)より大分県から25府県を回り、10月27日(月)に東京都に到着
11月14日(金)まで都内を巡回、その後デフリンピックスクエアに展示（予定）

○ 実施体制

各県内の巡回コースの選定、巡回地の行政への働きかけ、巡回に合わせたイベント等の企画、キャラバンカーの運転等は、都道府県聴覚障害者協会に委託し、リレー方式で最終地点の東京までをつないでいく。



報告（４）大会への子供の参画について

- スポーツの素晴らしさや共生社会の大切さ等を学び、成長することをサポートできるよう、大会への子供の参画を推進

1 子供の競技観戦・体験活動

- 学校の希望により、競技観戦もしくは体験活動を選択
- デフスポーツやろう者の文化への理解を深めるきっかけとなるよう、事前学習等に活用できる教材を提供
- 競技観戦では、サインエール等で応援するほか、ユニバーサルコミュニケーション技術の活用や情報保障についても紹介
- 体験活動は、デフリンピックスクエアにおいて、デフスポーツ体験等を実施
- 被災地（岩手県、宮城県、福島県及び石川県）の子供たちも競技観戦に招待

2 ろう学校の子供たちの特別な参画

- 競技観戦に合わせて、以下の機会を提供
 - ☞ 選手入場時のハイタッチやエスコート
 - ☞ 表彰式の運営補助（副賞トレイベアラー）
- 都内の全ろう学校6校の子供たちに加えて、被災地(石川県)の学校なども参加予定

報告（5）デフリンピック気運醸成に係る大会直前・大会時の都の主な取組について

- 大会直前期には、より多くの人たちに会場に足を運んでもらえるよう、多様な広報施策を展開
- 大会本番時には、様々な関係者と連携して、選手の活躍や大会の盛り上げを後押ししていく

大会直前期の主な取組

- ・ 都内区市町村等が主催する様々なイベントにブース出展し、大会をPR
- ・ 大会までの日数を表示したモニュメントを活用し、会場自治体を巡る**カウントダウンツアー**を実施（8/3～11/14）
- ・ 都庁2階において、デフリンピックPRコーナーを開始（10/1から）
- ・ 東京ゆかりのデフアスリートの**応援サイト**を開設（10/3）
- ・ デフアスリート等を招いて**大会1か月前イベント**を実施（10/15）
- ・ 都庁プロジェクトマッピングをはじめ、交通広告やSNS、雑誌など多様な媒体により広報プロモーションを展開（10月下旬から）
- ・ **広報東京都11月号**に特集記事を掲載
- ・ 連盟、事業団と協力し、メディアを対象に**プレスセミナー**の実施（11/5）



「東京ゆかりデフアスリート応援サイト」



大会1か月前イベント



カウントダウンツアー SNS発信

大会時の主な取組

- ・ 都庁デフリンピックPRコーナーにおいて、日本選手の情報発信
- ・ 「サインエール応援団」を結成し、日本戦やメダルセッション等において**サインエール**で選手を応援
- ・ 駒沢オリンピック公園において、アスリートとの交流やデフスポーツ・パラスポーツの体験などが楽しめる**「スポーツFUN PARK」**を開催（11/22～24）



サインエールで選手を応援している様子

報告（6）ユニバーサルコミュニケーション（UC）の促進に係る大会時の都の取組について

- これまで、各種イベントや展示会などにおいて、UC技術を展示・PR。各種競技会等において技術実証
- 大会本番では、UC技術を多様な場面で活用、PRを通じ技術の社会実装につなげ、大会の確かなレガシーとしていく

大会時の取組概要

1 競技会場



- ・ 選手・関係者の円滑なコミュニケーションをサポート
- ・ 最新技術で誰もが“音を見る” “音を感じる”競技観戦



サインエージを効果的に活用して
わかりやすく情報を提供



競技音をオノマトペや振動で体験



競技解説等を
スマートグラスで見る

2 デフリンピックスクエア



- ・ 「sure talk」など最新技術を展示・PR
- ・ 誰もが楽しみ交流できる魅力的なコンテンツを用意



国内外の選手が、国際手話を多言語に
変換する「sure talk」で交流



誰もが楽しめる技術体験を通じ
東京の魅力をPR

3 街なか



- ・ 民間施設とも連携し、UCを東京の街に広げ、きこえない・きこえにくい方をおもてなし
- ・ 東京全体のアクセシビリティを向上



商業施設や選手宿泊ホテルで
UC技術を積極的に活用し会話



遅延等の駅でのアナウンスをスマホ
上で確認



○登録選手数、国・地域数（2025年10月28日現在、ICSDからの提供情報）

3081 選手（男子2014人、女子1067人）、80 の国・地域 がエントリー

○実施種目数

21 競技 209 種目を実施予定

ICSD規約に基づき、最終登録で実施要件（「2地域かつ5人」の選手登録）を満たさなかった4種目（陸上女子3000m障害、陸上男子10000m競歩、空手男子団体形、オリエンテーリング女子リレー）は中止が決定

報告（8）選手への対応について



公式旅行代理店への宿泊予約状況について

- 2025年10月17日現在、公式旅行代理店を通して、62か国4,177名から申し込みあり。
- 現時点で80の国と地域から競技の最終登録がある。いくつか配宿調整中の国があるが、それ以外の国は公式旅行代理店によらず、自ら宿泊施設を手配する見込み。

	エリア	宿泊人数	配宿の考え方
1	新宿	1,936	国別配宿
2	渋谷	119	国別配宿
3	有明・台場・羽田	1,019	国別配宿
4	池袋	114	競技別配宿(射撃)
5	府中・調布	157	競技別配宿(バドミントン、レスリングで希望する選手)
6	立川	126	競技別配宿(ボウリングで希望する選手)
7	福島	439	競技別配宿(サッカー)
8	静岡	169	競技別配宿(自転車)
9	大島	98	競技別配宿(オリエンテーリング)
	合計	4,177	

※上記予約数は、競技エントリー数とは異なる。



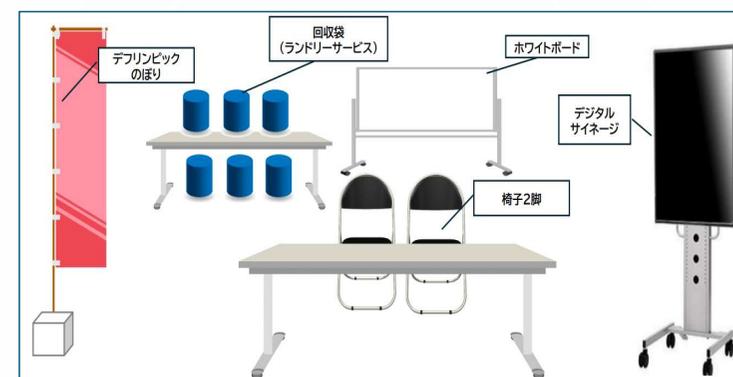
選手・関係者向けのサービスについて

【宿泊施設で】

- 各宿泊施設に選手団サービスデスクを設け、ランドリーサービスや選手団の問合せなどに対応
- 宿泊日数に応じて無料ランドリーチケットを配布
- 多言語音声文字化アプリを装備したタブレットなどをフロントに配備
- 選手・関係者にSIMカード（通信量無制限）を提供

【会場で】

- 食事は選手団負担であるが、おもてなしとして、バナナ・総菜パン・飲料などの
補食を提供
- 輸送ハブにおいて、夜間早朝の競技対応として朝食・夕食をケータリングで提供
- 周辺に飲食店が乏しい会場にはキッチンカーを手配



選手団サービスデスクの設置イメージ

選手団輸送について

【選手団】輸送サービス提供の内容

◆ 輸送期間

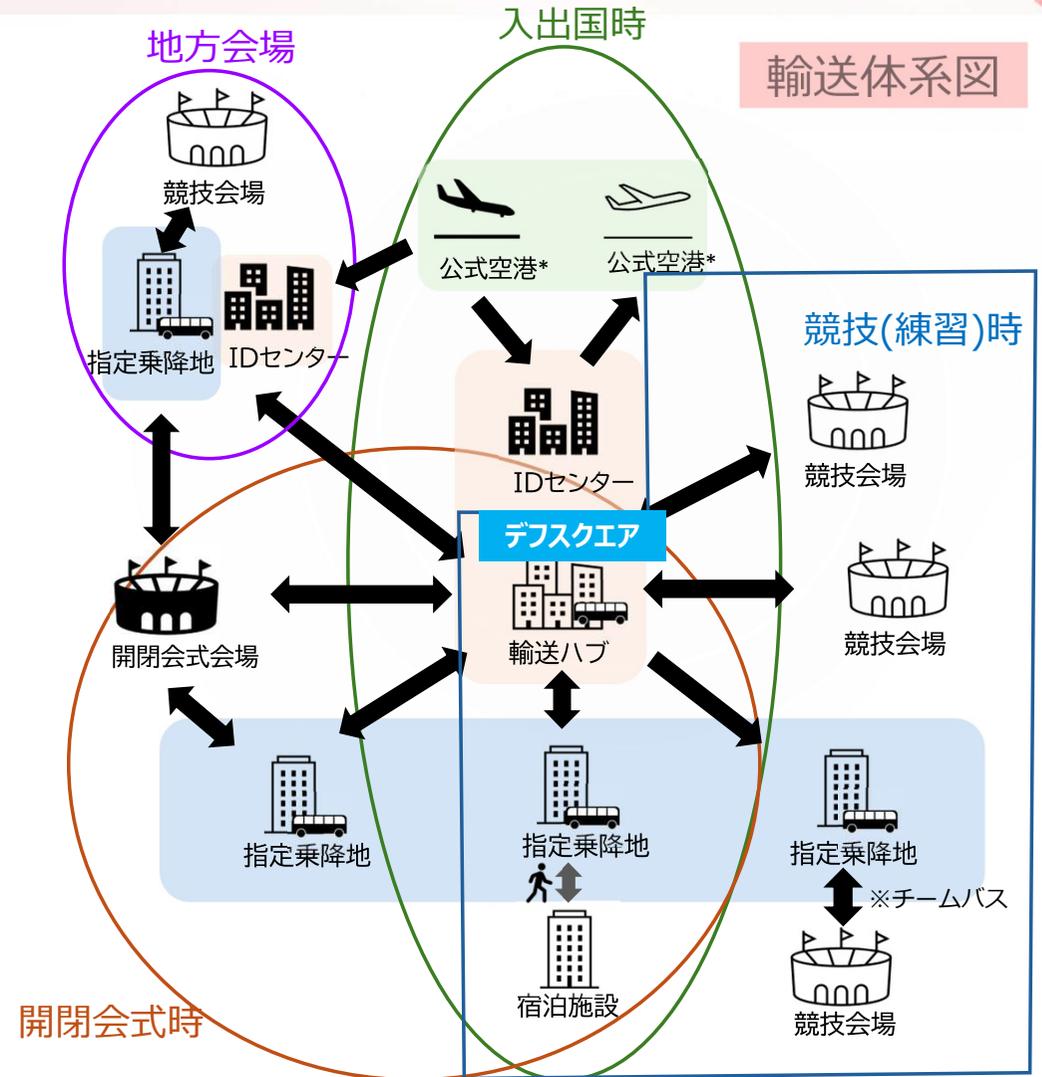
2025年11月11日から2025年11月28日まで
(開会式の4日前から、閉会式の2日後まで)

◆ 輸送時間

入出国、競技(練習)、開閉会式スケジュールに合わせて運行

◆ 提供方法

- LOCが選手団に提供する輸送サービスは、原則バス輸送
- 宿泊施設から競技会場までの移動には、1時間程度を想定





選手団輸送について

東京大会での主な輸送サービス

- ◆ 都内遠方会場や東京と地方会場を往復するバスには、運行管理者が同乗し、車内での選手のサポートや、リアルタイムに交通渋滞等の状況を競技会場にいち早く伝えることにより、選手が安心して会場まで移動することが可能
- ◆ 地方会場（福島、静岡）と東京（デフスクエア）を結ぶ輸送を提供し、遠方に滞在する選手に対しても、都内での競技観戦や、デフスクエアでの催しものを体験できるバスを用意
- ◆ トヨタ社協賛で提供される乗用車両を、バスと共に選手輸送に活用し、少人数の輸送や、バスに乗り遅れた選手への緊急車両として、全ての選手を確実に競技会場やホテルに送り届けることが可能



観戦に向けた情報発信

1 大会時のホームページ

大会時に、目的に沿って必要な情報がすぐにわかるように大会特設ページを作成

大会特設ページ

- ① 競技観戦ガイド
- ② 競技日程
- ③ 対戦の組み合わせと競技結果
- ④ 競技動画配信（YouTube）
- ⑤ ハイライト映像
- ⑥ 会場の混雑状況
- ⑦ デフリンピックスクエア





2 競技観戦ガイド

(1) 目的

デフリンピックを競技会場等で観戦する意欲を高めるとともに、当日来場者が気軽・便利に競技の見どころや試合の情報等を知ること、競技観戦をより楽しめるようにする。

(2) 概要

大会時ホームページに10月17日に掲載

各会場で来場時に配布するリストバンドの二次元コードを読み取ることにより、競技観戦ガイドのデジタル版とリンクする。

(3) 掲載項目

大会概要、デフリンピックスクエア、実施競技一覧、実施会場一覧、競技日程、来場に当たってのご案内、各競技紹介、協賛広告 等



2 競技観戦ガイド 表紙



競技紹介

卓球

● 競技紹介
ラケットを使ってテーブル上のネット越しにボールを打ち合い、得点を競う競技

● 実施種目
シングルス (男子・女子)
ダブルス (男子・女子・混合)
団体 (男子・女子)

● 基本ルール
1ゲーム11ポイントのラリーポイント制で行われます。サービスは2本交代で先に11点取ると1ゲームを取ったことになります。10対10になったときは、1本ずつのサービス交代で2ポイント差がつくまで試合が続行されます。種目によって7ゲームマッチと5ゲームマッチがあり、それぞれ4ゲームまたは3ゲーム先取すると勝利となります。

● 観戦のご案内
・フラッシュ撮影は禁止です。

▶ 競技スケジュールはこちら

会場案内図

2F

アリーナ

▶ 会場 東京体育館
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-17-1

【電車をご利用の方】 ● JR池袋線「千駄ヶ谷駅」下車 すぐ ● 都営大江戸線「国立競技場駅」下車 A4出口 すぐ
【バスをご利用の方】 ● (早急・東7)「千駄ヶ谷駅」下車 徒歩約1分 ● 八手バス(神宮の杜ルート)「千駄ヶ谷駅(東京体育館)」下車 徒歩約1分

デフスポーツならではの見どころ

デフアスリートが大会に出場する際に、会場でのルール説明、場内アナウンスの内容や誘導での情報保障の面で様々な配慮が必要です。卓球では、聞こえる人はボールがラケットに当たる音、台に当たる音を頼りに、ボールのスピードや回転のかかり方を判断しながらプレーを行います。一方、デフアスリートは、音の代わりに目でボールを見極めながら、視覚を駆使し予測を立てて、プレーしています。

デフリンピックでは、ゲーム間やタイムアウトの1分間でベンチコーチからアドバイスをする際、聞こえるベンチコーチの場合は手話通訳者が同席できます。限られた時間の中で情報を的確に選手へ伝えるため、チームの一員として奮闘する手話通訳者の姿にも注目です。

観客用リストバンドの配布



各競技会場にて、大会エンブレムでモチーフとして活用した“桜の花弁”をデザインに取り入れた「東京2025デフリンピック限定オリジナルリストバンド」を配布し、来場者総数を把握

【特徴】

- ◆ 会場ごとにオリジナリティのあるリストバンド
 - ✓ 競技名を記載
 - ✓ 競技ごとに色の異なるデザイン
- ◆ 観戦ガイドブックにアクセスできるQRコードをプリント



※射撃会場での配布はなし

会場装飾（ルック）



基本的な考え方

■ FOP周りに大会ロゴバナーを配置

→選手が高いパフォーマンスを発揮しながら高揚感を得られる空間を創出

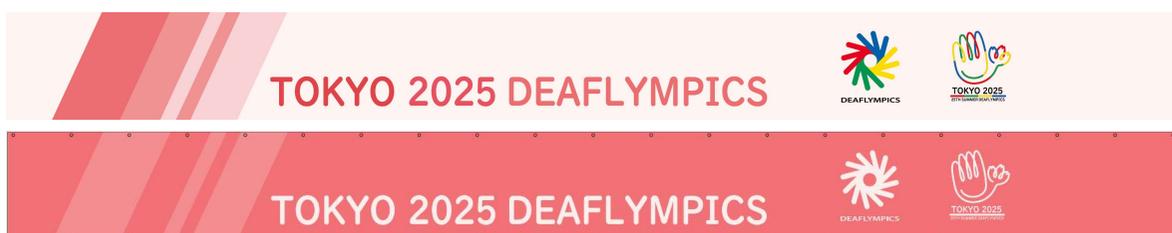
デザインは、視覚情報が重要なデフリンピックの特性を踏まえ、競技の妨げにならないシンプルなものとする。

■ 入口付近は桜ののぼりを配置 →会場に訪れる観客や選手を桜並木で出迎える。

■ アスリート・観客等会場に訪れた方々の撮影ポイントとしても活用し、また、**メディアへの映り込み**を考慮することで、東京2025デフリンピックをより一層印象づける。

基本ツールデザイン

■ 大会ロゴバナー



■ のぼり





会場装飾 (ルック)

装飾イメージ



京王アリーナTOKYO (バドミントン)



東京アクアティクスセンター (水泳)



東京武道館 (柔道・空手)



駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場 (陸上競技)



メディアからの申込状況について（10月17日時点）

大会時の取材等に関する申込状況は以下のとおり

- **IDカード申請**

国内：182社2,309名 海外：16社54名

- **放映希望申請**

国内：10社 海外：1社

- **映像使用希望申請**

国内：36社 海外：6社



1 目的・意義

- デフリンピックの大会特性や競技特性に合わせた各競技会場の取材要項を掲載
→デフアスリート等にも配慮しながらも、メディアに対し、円滑な取材機会を提供する
- 日本語版と同じ内容の英語版を制作
→海外メディアへも充実した情報提供を行い、国際スポーツ大会広報としての役割を担う
- 取材のきっかけとなる内容を盛り込み、メディア露出につなげ、大会の気運醸成を図る
→スポーツ大会の情報のみならず、文化や情報技術に関する様々な取組みを紹介し、共生社会の実現に寄与する

2 内容

- 大会概要（基礎情報、開催地の取組、ボランティア、メダル、UC、大会ウェブサイト・SNSなど）
- 取材に関する留意事項（メディアIDカードの取扱い、メディアセンター・競技会場での取材要項）

3 構成等

- 全体で約300頁程度
- メディア専用ページ等でのPDFデータ掲出、データを項目ごとにわけると、情報量が多いながらも各メディアが必要とする記載にリーチしやすくする
- メディア専用ページに掲載中



4 原稿例

取材に関する留意事項

(例) 水泳：東京アクアティクスセンター

2.4.16 水泳 東京アクアティクスセンター

1 会場概要



●東京アクアティクスセンター

<https://deaflympics2025-games.jp/main-info/venue/tokyo-aquatics-centre/>

〒135-0053 東京都江東区辰巳 2-2-1

●アクセス

【電車】

- ・東京メトロ有楽町線「辰巳駅」下車 徒歩約 10 分
- ・JR 京葉線「船見駅」下車 徒歩約 15 分
- ・JR 京葉線・東京メトロ有楽町線・東京臨海高速鉄道りんかい線「新木場駅」下車 徒歩約 20 分

【バス】

- ・都営バス 13 乙 船糸町駅前～深川車庫前「辰巳団地」下車 徒歩約 5 分
- ・都営バス 門 19 門前仲町～深川車庫前または東京ビッグサイト「辰巳団地」下車 徒歩約 5 分

TOKYO 2025 DEAFLYMPICS 173

3 メディアエリア



①受付 ②メディア席 ③撮影エリア ④インタビュースペース ⑤セレモニー ⑥メディアワーキングスペース

TOKYO 2025 DEAFLYMPICS 174

①受付

- ・受付は競技開始 1 時間前からです。
- ・取材対応中は、メディア ID カード及びビブスを常に着用ください。
- ・なお、メディア ID カードを忘れた場合ご取材いただくことはできません。事前にデフリンピックスクエアのメディアセンターにてお受け取りください。メディアセンターでの ID カード及びビブスの受取は、11 月 11 日からデフリンピックスクエア内のメディアセンターにてお受け取りいただけます。
- ・名刺2枚をご提出ください。

②メディア席

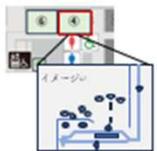
- ・メディア席からの撮影は可能ですが、フラッシュの使用は禁止です。
- ・日をまたいでの場合取りはできません。
- ・メディア席の利用はすべての競技プログラム終了後すみやかに退席ください。

③撮影エリア

- ・競技中は、撮影エリアから撮影いただけます。盛り合ってください。
- ・三脚の使用はできませんが、ステージ上階スタンドのみで使用できます。
- ・プールサイドでの撮影は確保して撮影してください。
- ・フラッシュ撮影は禁止です。
- ・スタート合図時は静粛をお願いします。
- ・日をまたいでの場合取りはできません。
- ・プールサイドでの撮影には内観が必要となります。ご利用いただき、メディアワーキングスペースにて履き替えてください。
- ・インタビュースペース以外での選手へのインタビューはできません。

④インタビュースペース

- ・競技終了後インタビュースペースにて取材いただけます。
- ・特定の選手に取材希望が集中する場合、囲み取材の形式を採る可能性があります。その際の質問はムービー、パンの順に行ってください。
- ・インタビュースペースには、日本語通訳を配置する予定です。
- ・手話通訳者の音声等は報道等にご利用いただけます。



・照明の使用にかかわらず、選手が円滑にインタビューできるよう、選手から見やすい場所に手話通訳者に立っていただくなどご配慮ください。

TOKYO 2025 DEAFLYMPICS 175



メディア向けの情報発信について

【第1回記者会見】 11/14（金）13:30～14:30 デフリンピックスクエア小ホール

■ 主催者等挨拶

登壇者：国際ろう者スポーツ委員会（以下「ICSD」） アダム・コーサ会長
一般財団法人 全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会
（以下「デフリンピック運営委員会」） 久松三二委員長
公益財団法人東京都スポーツ文化事業団デフリンピック準備運営本部（以下「デフリンピック準備運営本部」）
北島隆 チーフ・オペレーティング・オフィサー、板倉広泰 総務部シニアマネージャー

■ 協賛企業によるプレゼンテーション

ゲストスピーカー：株式会社アシックス 三原千咲 パラスポーツ企画部 オペレーションチーム マネージャー
阿部恵大 ウェルビーイング推進部 DE&I、エンゲージメント推進チーム
トヨタ自動車株式会社 寺尾悟 スポーツ支援室パートナーシップ推進グループ GM
ソフトバンク株式会社 柏木陸照 法人統括 公共事業推進本部本部長

【プレス説明会】 11/17（月）10:30～12:00 デフスクエア記者会見場

■ 大会運営について

登壇者：デフリンピック準備運営本部 北島隆 チーフ・オペレーティング・オフィサー、板倉広泰 総務部シニアマネージャー

■ ろう者の文化について

登壇者：デフリンピック運営委員会 倉野直紀事務局長

■ 筑波技術大学によるプレゼンテーション

ゲストスピーカー：国立大学法人筑波技術大学 石原保志学長、中島幸則教授



メディア向けの情報発信について

【第2回記者会見】 11/20 (木) 10:30~12:00 デフスクエア記者会見場

■大会運営について（中間総括）

登壇者：ICSD 大杉豊副会長、ユルゲン・エンドレススポーツディレクター

デフリンピック運営委員会 久松三二委員長

デフリンピック準備運営本部 北島隆 チーフ・オペレーティング・オフィサー、
板倉広泰 総務部シニアマネージャー

■大会アンバサダーの活動について

ゲストスピーカー：川俣郁美 東京2025デフリンピック応援アンバサダー

【第3回記者会見】 11/26 (水) 11:00~12:30 デフスクエア記者会見場

■大会の総括、閉会式等

登壇者：ICSD アダム・コーサ会長

デフリンピック運営委員会 久松三二委員長、

デフリンピック準備運営本部 北島隆 チーフ・オペレーティング・オフィサー
板倉広泰 総務部シニアマネージャー

開会式・閉会式の主な出演者



【開会式】

【日時】 令和7(2025)年11月15日(土)
【会場】 東京体育館(渋谷区千駄ヶ谷)

【閉会式】

【日時】 令和7(2025)年11月26日(水)
【会場】 東京体育館(渋谷区千駄ヶ谷)

開閉会式 演出家

大橋弘枝氏(きこえない人)、近藤良平氏(きこえる人)の2名の演出家を起用。

開催国の文化等を表現する「アーティストックプログラム」では、きこえない、きこえにくい人、きこえる人、あらゆる垣根を超えてコミュニケーションを楽しみ、ろう者の文化を共有するとともに、世界に東京・日本の魅力を発信していきます。



大橋 弘枝



近藤 良平

ステージパフォーマー・客席パフォーマー

ステージパフォーマー

近藤氏のダンスカンパニーのプロダンサーと一緒に、オーディションで選ばれた、きこえない、きこえにくい人ときこえる人(子供や障害のある人等)が共につくりあげる

客席パフォーマー

オーディションで選ばれたメンバーを客席にも配置し、一体感を醸成



デフリンピックスクエアの設置

大会運営本部や輸送ハブ、メディアセンター等の機能を有する大会運営拠点であるとともに、多くの人々がろう者の文化への理解を深め、東京の魅力を体験できる取組などを展開する文化発信拠点として、デフリンピックスクエアを設置

1. 概要

■期間

令和7年11月15日～26日（12日間）

大会開催に合わせて開設。IDカード発行などの一部業務は大会に先行して実施

■会場

国立オリンピック記念青少年総合センター

大会運営等に対応する施設を保有。様々な場を一度に提供し、事業を効果的に展開

■対象

選手等の大会関係者、都民等

大会関係者に加え、多くの都民が気軽に参加できるプログラム等を実施

2. 設置する機能

①大会本部機能

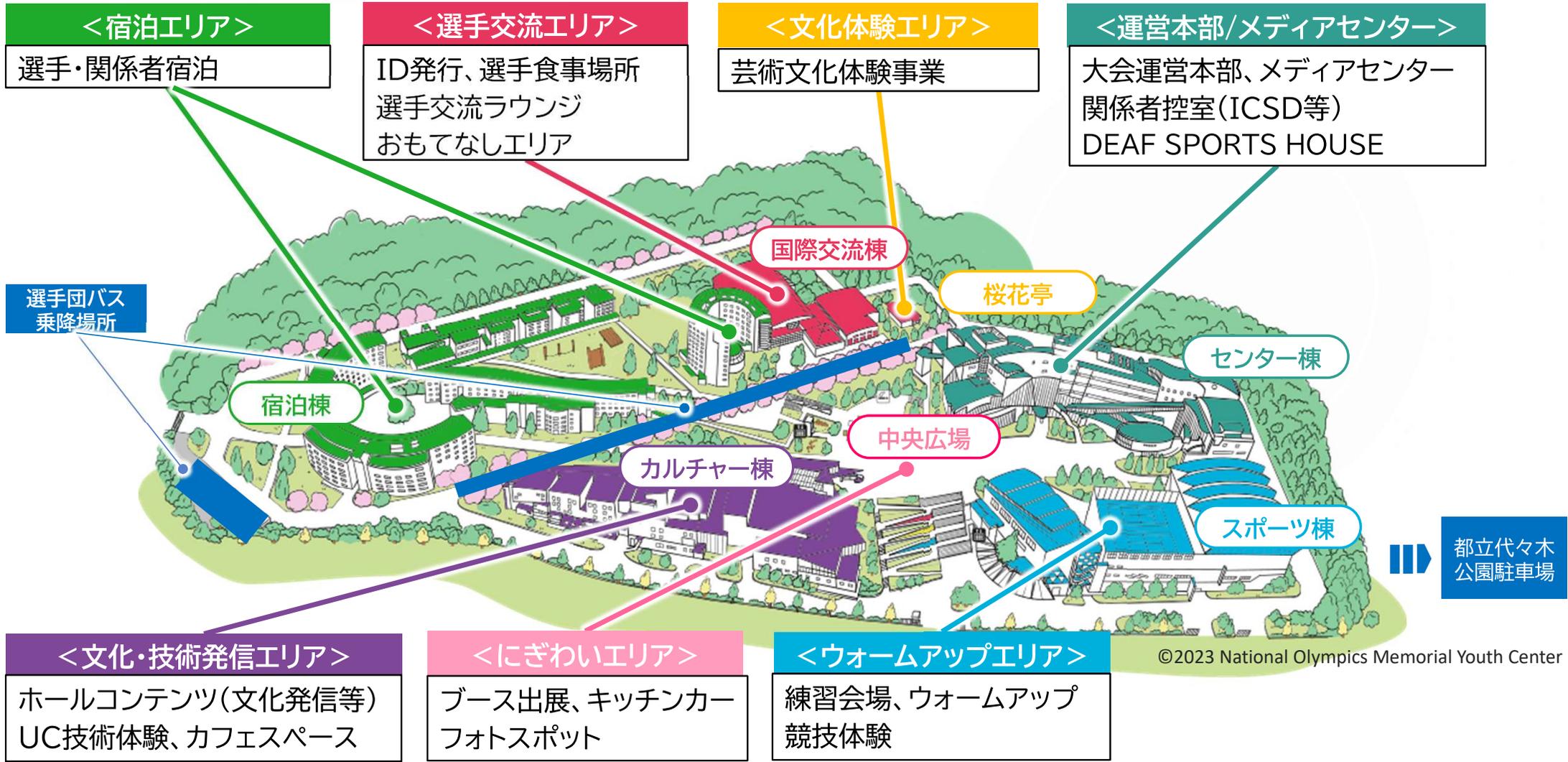
大会運営本部や輸送のハブ、メディアセンター、練習会場等の機能をもつ大会運営拠点として、デフアスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるよう大会を運営する

②文化発信機能

デフスポーツやろう者の文化の理解を深めるコンテンツをはじめ、ユニバーサルコミュニケーション技術や東京の芸術文化に触れる機会など、多様な人々が一緒に楽しめる多彩なプログラムのショーケースを行う

デフリンピックスクエアを通じて、大会を成功させ、誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会の実現に繋げていく

デフリンピックスクエア 全体マップ (案)



<宿泊エリア>
選手・関係者宿泊

<選手交流エリア>
ID発行、選手食事場所
選手交流ラウンジ
おもてなしエリア

<文化体験エリア>
芸術文化体験事業

<運営本部/メディアセンター>
大会運営本部、メディアセンター
関係者控室(ICSD等)
DEAF SPORTS HOUSE

選手団バス
乗降場所

宿泊棟

国際交流棟

桜花亭

センター棟

カルチャー棟

中央広場

スポーツ棟

都立代々木
公園駐車場

<文化・技術発信エリア>
ホールコンテンツ(文化発信等)
UC技術体験、カフェスペース

<にぎわいエリア>
ブース出展、キッチンカー
フォトスポット

<ウォームアップエリア>
練習会場、ウォームアップ
競技体験

主な機能・コンテンツ一覧（案）



エリア名	場所	機能・コンテンツ	期間	運営	備考
運営本部 メディアセンター	センター棟	大会運営本部(MOC)	10日～27日	デフリンピック準備運営本部	<p>【オープン時間(一般来場者)】 9:00～20:00</p> <p>※コンテンツによって運営時間は異なります。</p> <p>※14日のオープニングイベントに合わせて、一部プレオープンを予定しております。</p> <p>【入場料】 無料</p> <p>※一部、選手・関係者のみ利用可能なエリア及びコンテンツがございます。</p>
		選手団問合せ窓口・スポーツインフォメーションセンター(SIC)	11日～27日	デフリンピック準備運営本部	
		メディアセンター	11日～26日	デフリンピック準備運営本部	
		選手団用会議室	11日～26日	デフリンピック準備運営本部	
		関係者諸室(ICSD、ろうあ連盟、東京都)	11日～27日	各主体	
		DEAF SPORTS HOUSE	15日～26日	全日本ろうあ連盟	
ウォームアップエリア	スポーツ棟	練習会場(バレーボール/バスケットボール)	15日～25日	デフリンピック準備運営本部	
		ウォームアップエリア	12日～25日	デフリンピック準備運営本部	
		競技体験(子供観戦事業、デフスポーツ・コミュニケーション体験)	15日～25日	東京都	
にぎわいエリア	中央広場	フォトスポット/スタンプラリー	15日～26日	デフリンピック準備運営本部	
		被災地PRブース	15日～26日	東京都	
		ヘブンアーティスト	15日～16日、22日～24日	東京都	
		マスコットグリーティング	22日～24日	東京都	
		キャラバンカー	15日～26日 ※14日到着式を予定	全日本ろうあ連盟	
各エリア		ブース出展(協賛企業等)/キッチンカー	15日～26日	デフリンピック準備運営本部	
文化・技術発信エリア	カルチャー棟	ホールコンテンツ(文化発信等)	15日～26日	デフリンピック準備運営本部・東京都	
		提灯リコグニション	15日～26日	デフリンピック準備運営本部	
		カフェスペース	15日～26日	デフリンピック準備運営本部	
		デジタル技術展示・体験プログラム(みるTech)	15日～26日	東京都	
		東京都ブース(観光PR、アニメ展示)	15日～26日	東京都	
文化体験エリア	桜花亭	芸術文化体験事業(茶道・着付け・生け花体験)	16日～25日	東京都	
選手交流エリア	国際交流棟	選手交流ラウンジ (都内観光ツアー、折り紙体験、銭湯PR、応援メッセージ等)	16日～25日 ※都内観光ツアー:20日～25日	デフリンピック準備運営本部・東京都	
		おもてなしエリア(縁日、キッチンカー)		デフリンピック準備運営本部	
		ID発行	11日～26日	デフリンピック準備運営本部	



大会エンブレム

大会のシンボルとなるエンブレム制作にこどもたちが参画

- デザイン案は、筑波技術大学の学生が制作
- 都内の中高生の投票によりデザインを決定



メダルデザイン

全国の小中高生によるオンライン投票でメダルデザインを決定

(総投票数: 8万543票 2024年11月15日 発表)

- メダル表面は、折り紙で作った鶴を描いており、選手たちが大きく羽ばたき、活躍することを願ったデザイン。縁起が良いとされている日本の伝統的な模様を使用
- メダル裏面は、いくつもの線がまじりあうデザインで、世界の人とのつながりを表現
- 製作にあたっては、伝統工芸士を含む東京の熟練職人の技術を活用し、精巧なデザインを実現
- メダルリボンは、日本の伝統的な模様を組み合わせたデザインで、糸を複雑に組み上げる伝統技法「東京くみひも」によって、手作業で精密に製作。「藍鉄色」という緑色を含んだ濃い青色で、江戸時代の人々が好んでいた色を使用



メダルデザイン(表)

メダルデザイン(裏)



メダルリボン



大会への協賛

○東京2025デフリンピックへの協賛は9月30日をもって受付を終了。

トータルサポートメンバー94者 ゲームズサポートメンバー52者 みるTechサポートメンバー21者

合計**160者**（カテゴリの重複あり）と契約締結済み。

○V I K（物品提供・役務提供等）による協賛が多く含まれており、今後、同意を得られた協賛者の支援内容を広くPRしていく。



トータルサポートメンバー（94者） 1/2

株式会社はとバス	株式会社読売新聞東京本社	ソフトバンク株式会社	公益財団法人山田昇記念財団
株式会社光文堂インターナショナル	株式会社朝日新聞社	株式会社INPEX	株式会社オリエントコーポレーション
株式会社ゼンリンデータコム	株式会社アシックス	東京地下鉄株式会社	東京パワーテクノロジー株式会社
株式会社ジェイ・ブロード	株式会社TBSホールディングス	社会福祉法人友愛十字会	大塚製薬株式会社
リオン株式会社	S M B C 日興証券株式会社	アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社	塩野義製薬株式会社
住友電設株式会社	ケイアイスター不動産株式会社	東京メトロポリタンテレビジョン株式会社	株式会社フジミンコーポレーテッド
アデッソ株式会社	株式会社アイシン	株式会社Asian Bridge	文化シャッター株式会社
株式会社ジャパンディスプレイ	東日本旅客鉄道株式会社	株式会社大林組	株式会社スーパーアルプス
株式会社リードビジョン	株式会社T Bグループ	デマント・ジャパン株式会社	株式会社博報堂テクノロジーズ
岡山放送株式会社	株式会社T O W A	株式会社ウォーターネット	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
アマゾンジャパン合同会社	東京新聞（株式会社中日新聞社東京本社）	株式会社オープンハウスグループ	株式会社博報堂D Yアイ・オー
株式会社 JTB	太平電業株式会社	株式会社日本コクレア	一般財団法人日本財団電話リレーサービス



トータルサポートメンバー（94者） 2/2

株式会社ニシ・スポーツ	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	小田急電鉄株式会社	公益社団法人東京都鍼灸師会
日本郵政株式会社	清水建設株式会社	Coltテクノロジーサービス株式会社	株式会社東京交通会館
トヨタ自動車株式会社	野村ホールディングス株式会社	ダイタンホールディングス株式会社	京王電鉄株式会社
一般社団法人東京地区ライオンズ	株式会社TOKYO TOWER	株式会社みずほ銀行	巴山建設株式会社
一般社団法人ミス日本協会	LINEヤフー株式会社	スターバックスコーヒージャパン株式会社	パナソニックコネクト株式会社
日本卓球株式会社	ヨネックス株式会社	富士通株式会社	東急電鉄株式会社
ダイダン株式会社	独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部	株式会社ヨコブリシ	一般社団法人ことばインターナショナル
株式会社 帝国ホテル	株式会社マツキヨココカラ&カンパニー	有限会社エピスタ	株式会社日本経済新聞社
渥美坂井法律事務所・外国法共同事業	一般社団法人アスリートネイル協会	ビュージックスジャパン株式会社	株式会社フジテレビジョン
株式会社サンケイリビング新聞社	三井不動産株式会社	西武レクリエーション株式会社	MSD株式会社
三井住友トラストグループ株式会社	一般社団法人日比谷エリアマネジメント	西武鉄道株式会社	
東武タワースカイツリー株式会社	株式会社リオネットセンター城南	FILLTUNE株式会社	

協賛の状況一覧



ゲームズサポートメンバー（52者）（1/2）

企業・団体名	競技	企業・団体名	競技	企業・団体名	競技
株式会社キャスト・ワークス	サッカー	サノフィ株式会社	陸上	Hapbeat合同会社	柔道
株式会社ティーケーラボ	サッカー	戸田ビルパートナーズ株式会社	陸上	株式会社方角	バドミントン・卓球
えびすや土産店	オリエンテーリング	SBI損害保険株式会社	サッカー	平林金属株式会社	陸上
太平電業株式会社	陸上・卓球	株式会社ニシ・スポーツ	陸上	株式会社CCHサウンド	ゴルフ
株式会社カインズ	バスケットボール	東京都農業協同組合中央会	陸上	株式会社アイエスゲート	陸上
株式会社CCCMKホールディングス	サッカー	株式会社キザシオ	陸上・水泳・卓球	株式会社モリタ製作所	バレーボール
株式会社リコー	陸上・バスケットボール・バレーボール	株式会社エムゴールド	陸上・水泳	株式会社ポピンズエデュケア	ビーチバレーボール
住友電設株式会社	卓球・サッカー・バレーボール	東京ボウリング場協会	ボウリング	大東紡エステート株式会社	自転車
株式会社鼓月	陸上	清水建設株式会社	バレーボール	ベーカー & マッケンジー法律事務所 (外国法共同事業)	陸上・バスケットボール・サッカー・ゴルフ・テニス
東京パワーテクノロジー株式会社	陸上・サッカー	株式会社小糸製作所	陸上・水泳	株式会社コヤマドライビングスクール	ビーチバレーボール
ライフネット生命保険株式会社	陸上	ヨネックス株式会社	バドミントン テニス	合同会社StudioKAI	卓球
株式会社岩手リオン補聴器センター	サッカー	A Kコーポレーション株式会社	陸上	株式会社StudioKAI	卓球
日機通商株式会社	サッカー	みずほ信託銀行株式会社	柔道	祥恵株式会社	卓球
株式会社マルズ	サッカー	伊豆箱根鉄道株式会社	自転車	When I was young株式会社	バドミントン・サッカー・卓球
山崎製パン株式会社	陸上	メリダジャパン株式会社	自転車	株式会社グランバー東京ラスク	自転車

協賛の状況一覧



ゲームズサポートメンバー（52者）（2/2）

企業・団体名	競技
サントリーホールディングス株式会社	バレーボール
株式会社ArtSpaceDragonFly	陸上
株式会社日立製作所	陸上・バスケットボール
東急リバブル株式会社	卓球
株式会社ハイレゾ	バドミントン
コンパスグループ・ジャパン株式会社	陸上
株式会社NTTコノキュー	陸上・水泳・バレーボール

みるTechサポートメンバー（21者）

株式会社オリィ研究所	タクタス
サイナズ株式会社	クラスター株式会社
一般社団法人ハートウェアラボ	ソニーグループ株式会社
Insta Chord 株式会社	株式会社meleap
ハロームービー株式会社	SoundUDコンソーシアム
株式会社POCKET RD	株式会社シー・エヌ・エス
株式会社オンテローブ	株式会社ラディックス
株式会社スマートスタート	
株式会社ロジリシティ	
Hapbeat合同会社	
一般社団法人日本eスポーツ協会	
株式会社EG	
LiNKX株式会社	
株式会社日伸	

※トータル・ゲームズ・みるTech間の複数カテゴリで協賛している企業等があるため、合計は160者となる。



◆活動の概要

- ・当選者は**3,500人**（うち、**5割程度が手話言語でのコミュニケーションが可能**と回答）
- ・原則**1人3日間以上**、1日あたり**5時間～最大8時間程度**活動

◆配置・役割

【活動場所】競技（練習）会場、デフスクエア、開閉式会場、空港、輸送バス乗降場（指定乗降地）

- 【主な役割】
- ・選手、観客、関係者の案内・誘導（VIP対応含む）
 - ・選手団乗降場整理
 - ・各会場での運営サポート（入場者管理、飲食補充等）
 - ・ドーピング補助（シャペロン）
 - ・表彰式等の運営補助（トレイベアラー）
 - ・広報、メディアサポート

◆研修（オンデマンド）

- ・共通研修、手話言語研修、ろう者の文化等理解研修を6月から8月にかけて順次配信
- ・10月に配置・役割別研修、ユニバーサルコミュニケーション（UC）研修を配信

◆シフト・役割の通知

- ・7月に活動場所・日程（案）を通知。その後調整を重ね、10月上旬に確定版のシフト・役割を通知



〈参考資料〉 大会公式ポスター

